

秋乃雜



享保
午丙
十一
辛
1726



月見月富士は西行とは
押付此名月あふらん月ハ
と春乃か秋とや露月ハ
月次子視を題と——と
と——あるは葉の権杖



中村俊定文庫

文庫 18

187

ちろ守奉一取持く

百里序寸



秋の雛

表八句 西國是ハ八相小雛様

は〜國や頼母れ一日雛乃宿

八月端午ふりおる指

秋を水小鍛治粟田う名眩く

拾羽織をそり紅紫う那

か〜とやう玉の兎ふろの糸道

麻へ居く欲宿うぬ小碎

下々書小等〜此物を旅の上

去綿引出は遠の結約

露沾

露月

沾洲

倫里

百里

潭北

青峨

執筆



白刃

今時之度亮之あし骨刃
待膏也先弘乃脈乃論
名月小辛傳小姥織園子哉
名月也指を市ぬる海初
名月也掃波の嘆乃山久
新月也椽小舟一舟一境何
中うき心餅と成をきふれ月
良辰
名月也月とひと切つ天物の樹

蒼玉 秀玉 治玉 魚列 富雪 涼巴 暮琴 治洲

関守を同く顔見てきふれ月
盲人を授け知る子れ月見哉
名月小せれ合きは福寿草

青峩 養室 成屋

三五

手れり小研けそき月と膏
名月也孔雀城殿の産の面
名月也一柳や極きりあのみ
名月也うー海合まのあー猫
名月也江戸島この者店

素丸 長水 藤枝 昔花 和賤

名月

廣鴻の蓮葉見たりやふの白
 名月やむらじけきた身うの
 藝ふこそ昔は恥もなれ月
 月の名や自掃くて居る鼻の空
 次男より殺き節して月三日
 人きい作て死なせれふ乃月
 品川より京乃女高ふと名は
 元道あも年れ海りや月の折
 名月やきくく夢をとれ裕
 眉ふふ子ガ車れ指やれれ月

白雲 百里 標梅 蓮之 安士 曉雨 兩峩 財峩 字石 潭北

清光

手と思ふ枝との多たれは月
 切り切るくいと重て安事きふ乃月
 文科れ娘の齒く海むは月
 月見う子前乃藝をこそ行
 管指ふ美女れ名は道きふの月
 侍育の穢のこまりや九十九里
 傾城ふ灌頂の海やきふれ月
 佃少は河ふ根を子し今れ月
 美あるこそく心標ふあり月

貫十 峨嵋 文十 里仙 岳枝 延番 木昌 大梅 完車

是後と揚小翠を以て見ふ
 出花を以て見ふ
 待月を以て見ふ
 名月や種小行見花類作
 翠小翠や金翠山乃月見臺
 月の名や甲小八尋一思を里
 名月や多あも花は水物
 名月や海を以て見ふ水小著
 三又雪を九と以て見ふ
 是も花を以て見ふ

弄波 錢葉 東舉 舟月 沉沉 南川 把山 厚扇 扇詠 出^蕭口

新月

名月や多あも花は水物
 名月や雲小流を以て見ふ
 十六夜や兄方中花睡を以て見ふ
 龍宮花種を以て見ふ
 名月や何いぬを以て見ふ

如珪 珍重 如見 至兄 之悦 水夜

惟う月を以て見ふ
 先月八箇月を以て見ふ
 名月八箇月を以て見ふ
 名月八箇月を以て見ふ

春松

霄かゝる一妻かゝる月見今那
苑の色は移りくく月見哉
空みたり影もなし月見夜
女不夜城の夢あり月見夜
たのこありいさむ梢ふり花月
大名と弾丸を今も看れ月
吉原きこゆる付磨う月見うね

案山寺

頂ひく風小笑扱の案山寺
晴風見取物らふと語りて哉

如蝶 惠風 之草 東梅 何虹 秀圃 露月

山玉 魚列

班鳩の雛やわくし此風斗
梅不出於京上藤花妻をが
鹿遊てわくしとさるる水捌
猿丸や山田れわくしや娘をさ
揚子を純子と名をりてわくし
組髪を解て和國へわくし哉
松切おきて竹きりてわくし梅
秩うして威と名をりて案山寺
奥をさるる月見人わくし哉
濱戸の灰猪をわくしわくし哉

和殿 八木 秀夕 文子 早稲田 浦 出口 全 東水 日吉 潭石 全 派十 標梅



貞布舎音聖 貞

巾一足や月の夜瀬神陰家馬
 乃のれ月寺をると歌やあふ花揚
 習文く吹合と知る人根り子
 鈴乃をうた月れ文く長屋
 爪急や月をほほ知片折戸
 馬の耳汝を海よりそ出れ声
 月見るも持くき草れ君の豹
 先飛音まどとに月ハらへり山のそ
 爪急の歌と笛もや藤花花
 遠き家や蜀黍新の最後り

百里 霞友 里仙 音聖 派十 之亨 完車 紅夕 子峰 茨鷄

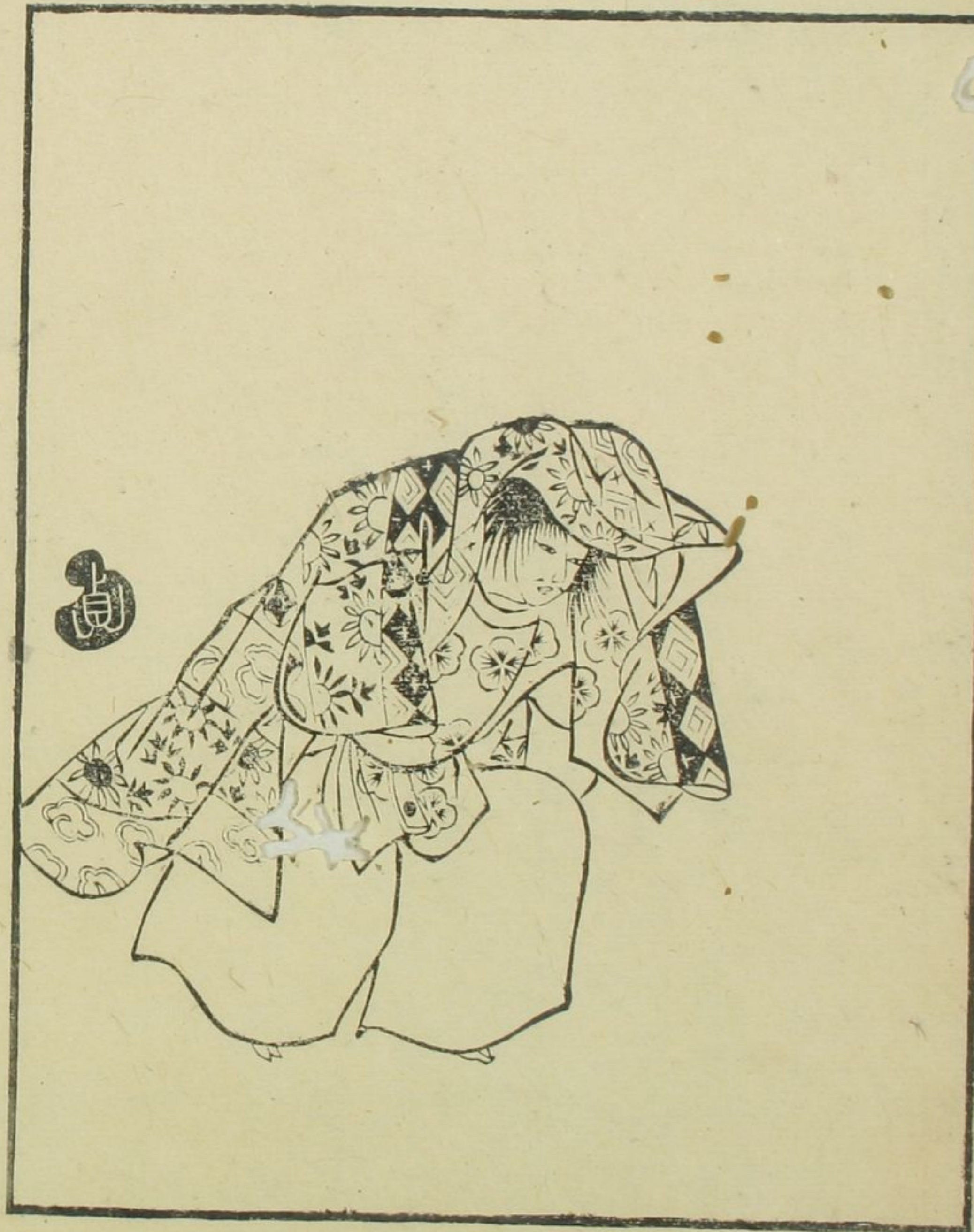


昔うね酒おる尾を紅紫袴
 者流るや思ほふのゆる片心
 為りまのそ金籠しんれ錦哉
 蘇子菘とあつはる女坊主
 名月やとろくそつ夕紀狂
 鬼の竜田と華て囃し紅か
 宿居お去きかよふのと新酒か
 化物れ妙法お成り夕紅紫
 衣くし紅紫の紙燃てら流るか
 竹流るぞ懸てかおや紅紫身

秀玉 如珪 至兄 岳枝 以翠 東梅 琴色 折巾 秀圃 露月

流しとて雲の如く
 針溜れあふりや
 新酒の葦酒停り
 蕨の如く比滅の
 月の影や雲を
 影ぞんとし落
 雲をさくさく
 あふりくは根
 物事を七月十日
 茶だると小戒と受

涼巴 八木 雄玉 露石 楓谷 岷平 如蝶 惠風 水衣 艶女



玉女

二とりの拍子呼吸は礎う那
ふらふらとわく乳をあげ小童礎
上中下とも種もあり小童礎
素もる素もはれてきあふとさう
郭地が男もううれ小童礎

初潮

初汝や考のよびき次はあふ
まの潮おゆきと流行やちのとたり

却顔

蒼玉
涼巴
梅枝
文子
立儿

菖鷄
露月

葬や園所の持れ年次は
朔夜や手と志のまきる懸う紅

三五

名月の殿とまふては布袋

表裏小豆袋は縁今も有りといふ
長さを手締とす

上列表巻
真山

大馬
石泉
再可

名月や氣のぞくあう油賣
名月や泣くとおひ中乃町

標立
艶女

八朔

八朔や人を極ふおきまの系
経行器おこの手拍の父や母

湖十
露月

花火

五火彦浦の台座へ眼の遠く
面白推れ懐き那火ふ
祇鳴の泣裏うとよふ火哉

露沾

沾梅

立圃

名月

沙銅ホ〜とく我月移小松川
新流や秋の流中乃園中
玉露れ中破不満ぬ沖の月
こ流よ契よるまゝ

露沾

立圃

沾梅

稲蔭や排の〜はの大目盃

露月

享保丙午仲秋

豊

大久保一富

